

## 京都府中学生野球連盟大会特別規定

R5, 11月改定

京都府中学生野球連盟の主催する試合は、当該年度公認野球規則並びに下記の大会規定を適用し行います。参加チーム代表者は事前に、代表、監督、コーチ、選手、応援団がこの規定を了承し参加したものと捉えますので各自チーム内で必ず確認のうえ、関係者へ周知してください。なお、グラウンドや大会日程の都合上、止むを得ない場合において変更する場合もありますので御注意ください。その際は、試合前のメンバー表交換時にご説明します。

1) 試合は、7イニングもしくは90分とする(但し、80分を超えて同点の場合は新しいイニングには入らず、タイブレーク方式で行う。)

2) コールドゲームは以下の場合に適用する。

① 5回終了時点で7点差の場合

② 降雨、雷などの悪天候(5回終了時点の場合は試合成立とみなす)

3) 試合球はナガセケンコー「M号」球を使用する。

4) 7回終了時点で同点もしくは、80分を超えて同点の場合は、タイブレーク方式(継続打順、0アウト1. 2塁で1イニング)を1イニング行う。それでも決着がつかない場合は、最終回出場選手の抽選にて勝敗を決する。

なお、この場合の代打及び代走は認められることとし、投手の投球数制限は厳守すること。

5) ファールボールは、各チームにおいて速やかに処理を行い、きれいにしたうえで球審へ手渡すこと。

6) 次試合の先発投手に限り、前試合開始後60分を経過若しくは5イニング目終了後より、グラウンド内(ファールゾーン・ブルペン)にて、投球練習を認める。

7) 天候による実施の可否は、大会本部にて決定し連絡する(試合開始60分前を目途)

8) 攻守交代は、全力疾走で行い、先頭打者及びベースコーチは、交代後速やかに所定の位置につくこと。

9) 打者はみだりに打席を外さないこと。また、サインはバッターボックス内から見ること。

10) メガホンの使用は、監督のみ使用を認める。

11) 試合後のグラウンド整備は、両チームが行う。

12) 監督・コーチ登録のある者は、選手と同一のユニフォームを着用すること。なお、背番号は監督30番、コーチは28番、29番をつけること。

13) 監督・コーチは登録のある者に限りコーチーズボックスに立つことが許される。但し、その際は選手と同様にヘルメットを必ず着用すること。

14) ベンチ内には、登録のある代表者・監督・コーチ2名・スコアラー、選手のみ入れるものとする。代表者並びにスコアラーは、チームと同様の帽子を必ず着用し、代表者は指導者と

して相応しい服装を心がけること。

※熱中症対策として7月～9月に開催する大会のみ、保護者2名までベンチ内等の本部が許可する場所へ入ることができる。

15) タイムは審判員が認めて「タイム」と宣告後、認められる。なお、タイムの回数は1試合に3回(攻撃・守備のそれぞれ)以内とする。(選手交代のためのタイムは回数に含めない。)

また、1イニングに監督が投手のもとへ2度行けば(行ったとみなされれば)自動的に投手交代となる。「投手のもとへ行く」の定義は、審判員が判断する。)

16) 抗議は認めない。ただし規則の適用の誤りを確認することは認め、確認が出来る者は、監督のみとする。但し、審判員が規則の適用を誤った場合のみとし、ストライク・ボール・ファールボールに関しては抗議することも異議することも認めない。場合によっては退場を命ずる。

17) 危険防止の観点から、バットリングや、マスコットバットなどはグラウンド内には持ち込みを認めない。また、捕手(ブルペン捕手含む)はマスク・レガース・ヘルメット・プロテクター・セーフティーカップを着用すること。

18) メンバー表は試合開始前(60分前)に本部へ提出し、本部立会いのもと監督及び主将が相互に交換し、先攻・後攻を決める。なお、メンバー表は4枚提出すること。その際、メンバー表は正確に記入し、フルネーム、ふりがなを記載すること。※メンバー表は複写式であれば、各チーム持参の物の使用を可とする。

※試合のあるチームは上記のことから、試合開始60分前には会場へ到着し本部へ申し出ること。

19) 試合は、試合開始時刻30分前であれば直ちに次の試合を開始できるものとする。

20) 選手交代の申し出は監督が正規のユニフォーム姿にて審判員へ告げること。(但し、わかさスタジアムでの大会に限り、審判員へ交代を申し出た後、本部前で監督がその詳細を本部へ告げることとする。)

21) グラウンド内では認められた者以外(当該プレーヤー、ベースコーチ、投球練習を行うもの)ベンチ内よりむやみに出てはいけない。

なお、控え投手の投球練習1組もしくは、野手のキャッチボール1組のどちらかとする。

22) 相手チームや審判員をはじめ、自チームに対する野次、暴言、暴力は応援者も含め厳禁とし、中学生野球らしいプレーと観戦マナーを心がけること。違反したと本部や審判員がみなした場合は、異議は認めず、当該チームの今後一切の本連盟への大会参加を不可とし、試合も没収試合とする。

23) 試合中や大会に付随する事故等については、主催者は応急処置をする他は一切の責任は持たない。従って、チーム代表者や保護者は事故等に対処する責任を持つ事。

また、夏場(7月～9月)の試合に限り、本部及び審判員が判断し給水タイムを設ける場合がある。その際の時間は試合時間に含めない。

24) 喫煙については定められた喫煙場所で喫煙マナーを遵守し、ゴミ処理については各チームで責任を持って持ちかえり処理すること。

- 25) 試合終了後は、速やかにベンチを空け次のチームへ譲ること。
- 26) ウォーミングアップは、大会会場内には原則ありません。また、グラウンド周辺のアップ等は周囲の迷惑にならないよう、会場周辺ルールを厳守し行うこと。
- 27) 投手の投球数は1日100球以内とする。(試合中規定投球数に達した場合は、その打者が完了するまでとする。ただし、同一イニング内とする。)
- 28) 登録用紙の提出後のメンバーの交代、背番号の変更は認めない。
- 29) 次の禁止事項を守る。団長及び監督は、責任を持って事前に指導する。
- (1) 紙吹雪、紙テープ、個人名の入った幟(のぼり)などの使用。
  - (2) 「野次」など相手に不利になるような言動。
  - (3) 鳴り物(太鼓やラッパなどの楽器)を使用する応援。
- 30) 岡崎公園野球場での大会は周辺への安全面の配慮から高反発バットの使用を禁止します。  
(バットの例)
- ミズノ社ビヨンドマックス、ZETT 社ブラックキャノン、アシックス社テックエース、SSK 社ハンター等)
- 31) その他、大会運営上や試合中に生じたトラブルは本部及び審判員によりルール、規則等の適用及び中学生教育の観点に基づき最終判定を下す。

(その他) 令和5年度実施大会より適用する